

四国的高速道路のあゆみ

- 1985年 3月 **四国初** 三島川之江 IC - 土居 IC 間 開通
- 1987年 10月 **高知初** 大豊 IC - 南国 IC 間 開通
- 12月 **香川初** 善通寺 IC - 三島川之江 IC 間 開通
- 1992年 1月 **新宮 IC・川之江 JCT 完成**
松山・高松・高知自動車道が接続
- 1994年 3月 **徳島初** 藍住 IC - 脇町 IC 間 開通
- 2000年 3月 **川之江東 JCT 完成**
四国 4 県を結ぶエクスプレスハイウェイ 完成
- 2003年 3月 高松自動車道 全線開通
- 2012年 3月 松山自動車道 全線開通
- 12月 高知自動車道 全線開通
- 2015年 3月 徳島自動車道 全線開通

四国高速道クロス地点
オブジェ (川之江東 JCT 北側)



三島川之江 IC



四国高速道路
発祥地広告塔 (三島公園)



高速道路 共に歩み 発展した 四国中央市

三島川之江 IC - 土居 IC 間開通 40 周年 × 市発足 20 周年

1985年3月27日、四国初の高速道路として、三島川之江 IC - 土居 IC 間が開通し、今年で40周年を迎えます。今回の特集は、本市が「四国の中央」と呼ばれる理由の一つである高速道路がどのように整備され、私たちの生活にどのような影響を与えてきたのかを高速道路と関わりが深い方へのインタビューを交えてお伝えします。

3つのICと2つのJCTで
まちが発展

四国を結ぶ川之江東 JCT
(2008年10月21日撮影)



NEXCO 西日本提供

開通した三島川之江 IC
(1985年3月27日撮影)



四国最大の高速道路都市



土居 IC

INTERVIEW 西日本高速道路株式会社

1973年10月19日、弊社の前身である日本道路公団は、三島川之江 IC - 土居 IC 間の整備に着手し、約12年の歳月を掛けて四国初の高速道路を開通させました。「12年」と聞くとも長いと思うかもしれませんが、当時の技術力や工事の内容を考えると、驚異的な速さだったと思います。日本の大断層・中央構造線に近接するこの区間の地質は脆弱で、実に6つの地区で地すべり対策工事を行っています。特に丸山地区(中曾根町)と的尾トンネル(中之庄町)は、大規模な対策を講じており、地下水を低下させるために丸山地区に設置した排水トンネルは、四国で唯一、また全国でも稀な工法です。的尾トンネルも、

四国初の高速道路はこうして誕生した

通常の倍以上の時間を掛けて慎重に掘り進めるなど、難工事の連続でした。それにもかかわらず、三島川之江 IC - 土居 IC 間が他の地域に先立って開通できたのは、地域の皆さまの理解と協力があつたからです。

そうして迎えた1985年3月27日、三島川之江 IC - 土居 IC 間の開通式には、四国4県の知事が出席するなど、四国初の高速道路の誕生は、四国各地から祝福されました。それから40年、1日8千台が三島川之江 IC を利用し、高速道路による四国中央市の経済効果は、年間56億円とされています。



排水トンネル(中曾根町)



四国支社長 後藤 由成 さん

1967年 兵庫県尼崎市生まれ
1989年 日本道路公団入社。高松工事事務所長、阪奈高速事務所長などを経て、2024年から現職

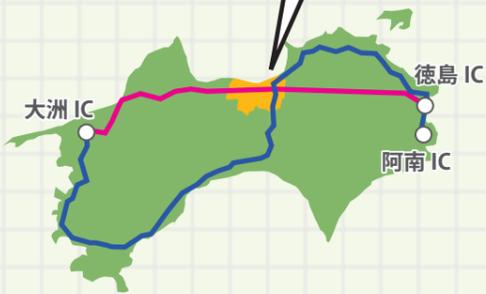
実は…義母は川之江町出身なんです

鉄道とは異なり、高速道路はドライバー自身が運転しなければ目的に行けません。そのため高速道路には、時速100キロでも快適に走れるようさまざまな工夫がなされています。案内看板やトンネルの照明、更には橋の種類に至るまで、ドライバーの視界に入るものは、圧迫感を与えないようなデザインや色、構造にしています。ドライバーの皆さまも高速道路を走行する際は、法定速度の順守や車間距離の確保など、安全運転にご協力ください。

四国初の高速道路 その始まりは四国中央市

四国の高速道路は、東西に貫く「四国縦貫自動車道」とS字に結ぶ「四国横断自動車道」を合わせて、「エクスプレスハイウェイ」と呼ばれています。1985年3月27日、四国初の高速道路として開通したのが、松山自動車道の三島川之江 IC - 土居 IC 間の約11キロメートルでした。15年後の2000年3月11日には、井川池田 IC - 川之江東 JCT 間が開通し、四国縦貫自動車道と四国横断自動車道が当地でX字状につながり、四国4県の県庁所在地が高速道路で結ばれることとなりました。

このことにより、本市は地理的なものだけでなく、名実ともに四国の中央となりました。今では、自動車専用道路を含め約600キロメートルにも及び、四国の観光・産業・生活を支える高速道路。その始まりであり要は、本市なのです。



■ 四国縦貫自動車道 (徳島 IC - 大洲 IC)
■ 四国横断自動車道 (阿南 IC - 大洲 IC)

高速道路で変わったこと

自動車での移動時間 (高松～松山間) ※国土交通省算出	
1985年 約4時間30分	2023年 約2時間30分
約4割短縮	
自動車での移動人数 (四国内) ※国土交通省・NEXCO 西日本算出	
1985年 年間1259万人	2015年 年間2321万人
約1.8倍	
四国の製造品出荷額等 (四国内) ※経済産業省「工業統計調査」より	
1985年 年間6兆9100億円	2022年 年間11兆3208億円
約1.6倍	

四国初の高速道路 三島川之江 IC - 土居 IC 間 完成までの歴史

- 1973年 10月 19日 整備計画決定
- 1980年 4月 23日 工事着手
- 1985年 3月 27日 開通

開通式では、この日を待ち望んだ多くの市民の車が列をなして、四国初の高速道路を走行しました。



MEMORY

バイパス × 高速道路



撮影地 上分町北新町

1985年3月20日、高速道路に先立ち、高速道路と接続する川之江三島バイパスの上分町下柏時間（1.4キロメートル）が開通しました。開通式ではテーパーがカットが行われ、出席者らが車で「通り初め」をしました。

地域産業の活性化に期待

川之江三島バイパス整備中



川之江三島バイパスが全線開通すると、三島川之江ICへの新たな物流ルートが形成されます。また、市内の渋滞緩和や災害時の道路ネットワークの強化などが期待されています。

三島川之江 IC - 土居 IC 間開通 40 周年 × 市発足 20 周年記念

高速道路完成までが分かる
パネル展を開催します!

¥0
FREE

3/27 (木) 10:00 ~ 15:00

- ▶ 入野 PA (上下線)
- ▶ 上分 PA (上下線)
- ▶ 道の駅 霧の森

三島川之江 IC - 土居 IC 間の建設過程や完成時の様子を写真などで紹介します。

問い合わせ先

総務調整課 28-6002

イベントの詳細はこちら



INTERVIEW

物流 × 高速道路

愛媛県トラック協会
四国中央地区 会長

トーヨー・ロジテック(株)代表取締役社長

西岡 斉さん

1960年 中曾根町生まれ
1999年 トーヨー・ロジテック(株)入社。
2019年から現職

高速道路は
産業を支えています



つこのJCTと三島川之江・土居・新宮の3つのIC、そして大型貨物船が接岸できる港を有する本市を「物流のまち」へと成長させました。

物流業界の救世主

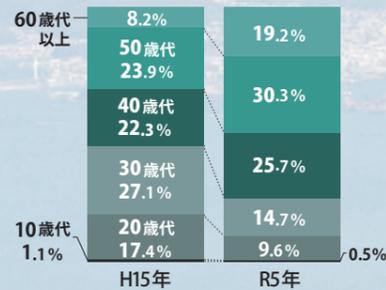
昨今、物流業界にはドライバーの高齢化や時間外労働の制限によるドライバー不足などの課題が重くのしかかっています。その中で、高速道路はこれらの課題解消に欠かせない存在です。信号がなく、一定の速度で走行できる高速道路は、視力や体力が低下する高齢ドライバーに優しいだけでなく、走行時間の短縮で労働環境の改善に一役買っています。昔前は、コストを抑えるために一般道の走行を推奨することもありましたが、今では多くの会社が積極的に高速道路を使用しています。

私たちと高速道路

このように、高速道路はドライバー、そして物流事業者にとって強い味方であるとともに、このまちの産業と人々の暮らしを支える大切な資源です。私たちは、これからも高速道路とともに成長し、まちの発展に尽力していきます。物流業界では、ドライバーにも荷物にも優しいさまざまな取り組みを積極的に進めています。「車が好き」「まちが好き」という方、私たちと一緒に物流でまちを支えてみませんか。

高齢化が進む物流業界

トラックドライバーの年齢構成

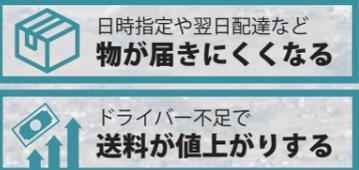


※総務省「労働力調査」より

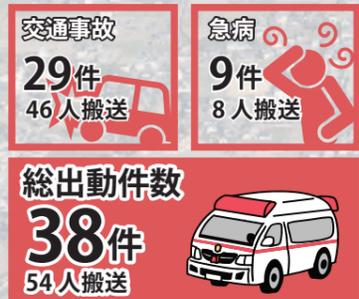
物流の2024年問題

働き方改革関連法で労働時間に関する規制が強化され、輸送能力（ドライバー）が不足する。

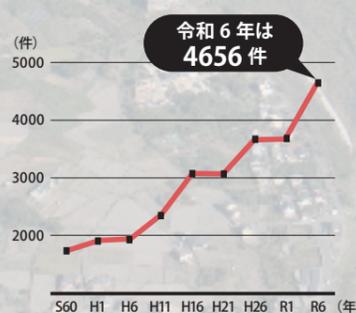
対策をしないと...



高速道路への 出動件数 (令和6年)



救急 出動件数の推移



救急 × 高速道路

四国中央市消防本部
消防署長

坂上 和人さん

1985年3月 宇摩消防本部(現・市消防本部) 入庁。消防二課長、消防一課長などを経て、2024年から現職

高速道路の利用で
助かる命が増えました



くねった山道などを走行することは、傷病者にとっても隊員にとっても大変な負担でした。また、長時間にわたり救急車が市外に出ることは、その間、市内の医療資源が減少することを意味します。

高速道路が つないだ命

高速道路が整備された今では、以前の半分の時間で傷病者を搬送することが可能です。近年では、ドクターヘリも整備されていますが、夜間は飛行できないことから、依然、救命活動において高速道路が重要な役割を担っています。また、エックスハイウェイで4県がつながるこの地域は、四国中央・三観(香川)・みよし(徳島)・嶺北(高知)の消防本部による連携した救命体制が整っており、これまで高速道路によって多くの命が救われてきました。

私たちと高速道路

一方で、高速道路で発生する事故が後を絶ちません。高速道路の事故による死亡率は、一般道路の約2.5倍と言われ、走行にはより注意が必要です。また、事故で車線が塞がれば、当事者だけでなく、他の傷病者の搬送にも大きな影響を与えることになります。人々の命を救う高速道路、そして救急車を適切に利用して、安心・安全な四国中央市にしていきたいです。